

小島 忠義議員

環境基本計画について

問 糸島市の持つ素晴らしい自然環境を次世代に引き継ぐため、どのような対策を立てているか。

答 市民、事業者などと協働して、エコライフの実践や環境保全活動、環境教育、イベントなどの取り組みを行い、次代を担う子どもたちに環境のたいせつさを教え、お互いが環境に対する意識を高めながら、行動に移していくことにしている。

問 10万人の市民が一緒になって環境美化に取り組めば効果も大きいと思うが、何か対策はあるか。

答 環境保全活動を行う団体などを紹介する環境情報サイトを構築し、情報発信を行うとともに、環境団体や環境ボランティアの育成支援、ネットワーク化などを行い、環境保全活動の活発化につなげたい。

人もまちも元気な「いとしま」にするための方策について

問 市内の観光地や施設などへの案内看板が少なく、分かりにくい。分かりやすく、センスある看板が必要ではないか。

答 現在サイン整備基本計画の策定を進めている。案内板は一目見て分かりやすいということが、一番大事

であると考えている。

この基本計画の策定においては、九州大学の先生の助言をいただきながら策定していく。

問 行政や役所はPRが上手ではない。観光PRの方法だが、新たな人材としてプロの方を入れると有効ではないかと考えるが、どうか。

答 現在、テレビ、ラジオ、雑誌などに糸島市を大きく取り扱っていたおり、今後もメディアに積極的に売り込みを行っていききたい。

人材については、7月からブランド関係の専門の嘱託員を雇用するので、嘱託員の意見なども参考に、今後の観光PR戦略を立てていきたい。

問 伊都国歴史博物館、ファームパーク伊都国の一体的運営を考え、さらなる活性化策はあるか。

答 春の農力体験フェスタ、秋の収穫祭では体験講座を開催し、期間中は博物館を無料開放するなどタイアップしている。

今後とも、イベントの開催など連携し、お互いのPRを強化したい。



ファームパーク伊都国(手前)と伊都国歴史博物館(右奥)

中村 進議員

都市計画マスタープランについて

問 市の人口フレーム(将来人口の推計値)と県が設定している人口フレームについて伺う。

答 長期総合計画では、平成32年の目標人口を10万2千人と設定している。また、県が設定している平成27年の人口を合計すると約10万人となるので、おおむね整合が図られている。

問 志摩地域は鉄道も国道もなく、県道に頼るしかない。福岡志摩前原線の進捗状況について伺う。

答 福岡志摩前原線の志摩小富士から岐志までのバイパス区間の総延長3160mのうち、現在、小富士から西貝塚の県道交差点までの1900mが完成している。残る区間は、平成24年度に完了の予定である。

問 離島振興法が平成25年3月31日で期限切れとなる。市で唯一の離島である姫島には大きな影響があると思うが、今後どのように取り組むつもりか。

答 離島振興法は、再度延長してもらわなければならない。今年が延長の判断のヤマ場となる。全国の離島関係市町村と連携して、国土交通省や国会議員などに懸命に働き掛ける。議会サイドもぜひ、決議などでご支援いただきたい。

糸島の観光振興について

問 当市における観光の、根本的な課題は何と考えるか。

答 アンケート結果によると、糸島市を訪れる方は、日帰り客がほとんどである。

また、滞在時間も半日の方が約5割、次に2時間程度の方が約3割という結果が出ており、糸島市を訪れる方の回遊性が低いということが一番の課題である。

問 市が考える「おもてなしの心」とは、具体的にどのようなものか。

答 お客さまに直接接する事業者のみなさんが、糸島の観光案内を行うなど、糸島市全体でお客さまを温かく包み込むような観光案内。

また、市内を回遊できる環境づくりとして、2次交通アクセスや公衆トイレ整備、サイン整備などのハード面も、おもてなしの心に含まれると考えている。

問 幣の浜駐車場に、観光用の公衆トイレの充実を図ることはできないか。

答 現在、市が設置している幣の浜駐車場は国の所有であり、保安林にも指定されている。法令上の手続きなど、ハードルは高いが、公衆トイレの必要性は認識しているので、実現の可能性に向けて、事務協議を重ねている。

吉丸 克彦議員

観光振興について

問 市の玄関口という面から、JR筑前前原駅をどのように捉えているのか。

答 JRを利用して糸島市にお越しいただく方をお迎えする糸島市の玄関口であり、観光面においても重要な拠点である。

問 JR筑前前原駅から市内各観光ポイントをつなぐ交通手段があるのが理想的である。現在、市はコミュニティバス運行の助成を行っているが、2次交通アクセスという意味で観光との連携は考えられないか。

答 公共交通機関である路線バスやコミュニティバスは市民の生活交通としての役割が第一の目的である。観光との連携となると運行ダイヤや経路の変更が生じることが想定され、市民の生活交通に支障を来すこととなるため、現状では観光との連携は難しいと考えている。

問 観光振興の観点からの交通アクセス対策として、どのような活動をしているのか。

答 2次交通アクセスについては、採算がとれる環境をつくり出すことが大きな課題である。

活動として、糸島市を訪れる方を増やすため、現在観光プロモーションPRツールを作成している。また、

多くの購読者を持つ雑誌社に広告掲載依頼を行っている。次に、糸島市をバスで巡る周遊メニューの実現のため働き掛けを行いたい。さらに、商品化のめどが付けば、市内外に向け情報発信を行いたい。

問 白糸の滝の観光シーズンの交通について、渋滞対策はどのように考えているか。

答 指定管理者と協議し、土、日、祝日の交通誘導員を増員して駐車場へのスムーズな誘導を図り、白糸の滝から約300m下方の駐車場からは、シャトルバスでの送迎も行いたい。

また、混雑状況を早めにお知らせするために、八反田の交差点などに交通誘導員を配置して対応したい。



多くの人でにぎわう白糸の滝

堀田 勉議員

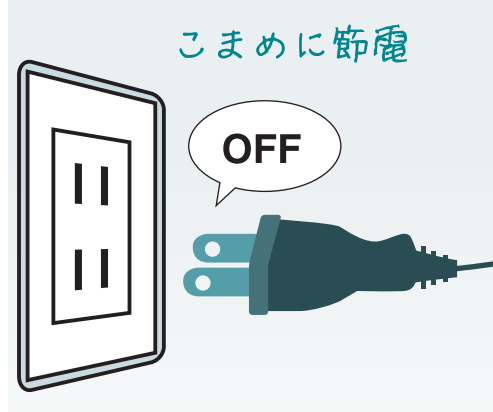
糸島市環境基本計画について

問 環境基本計画に基づき、どのような糸島市を築こうとしているのか伺う。

答 糸島市に住んでよかった、来てよかったと思う心を育み、ふるさと糸島市を愛する愛郷者づくりを進めながら、「豊かな自然と歴史、文化がもたらす潤いと活力あるまち・いとしま」を築いていきたい。

問 CO₂削減や循環型社会の実現に向けての取り組みについて伺う。

答 こみの減量をはじめ、再利用・再資源化の推進、再生可能エネルギーの導入、緑の管理と創出の4つを柱にした施策を進めていきながら、CO₂の削減、循環型社会の実現に取り組むことにしている。



問 節電に関し、市民に対してどのように対応していくのか伺う。

答 市民に対しては、広報いとしまや市ホームページにより、日常的にできる節電方法の紹介などを継続的に行う。また、事業所や公共施設などには、ポスターの掲示や啓発チラシ配布により節電の協力をお願いしていく。

問 東京都荒川区が行っている節電マイレージコンテストのように、楽しみながら節電につながる取り組みを考えているかどうか。

答 荒川区の取り組みは一定の効果があると考えますが、市では、エアコンの温度設定や照明のライトダウンなど、生活のなかでできる節電方法を広く市民や事業者周知して、節電の実践につなげていく。

【節電マイレージコンテスト】

電気代が昨年同月比で20%以上削減できた家庭に、節電グッズなどの賞品を進呈するという荒川区の取り組み。

問 再生可能エネルギーの導入促進について、太陽光発電の補助も考える時期に来ているのではないか。

答 太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入推進は、重要課題と認識しているが、国がエネルギー政策の見直しを表明していることから、動向を注視していきたい。